



横浜市立大学

「マイボトル・マイカップキャンペーン」

(横浜市立大学、環境サークル「STEP UP↑」、学生協委員会「Warp」)

“マイボトル・マイカップキャンペーン”とは・・・

オフィス・大学・学校・外出先で自分の水筒、タンブラー、ジョッキ、カップ、湯のみなどの飲料容器（マイボトル・マイカップ）を使う取組を促進することにより、ごみ、環境負荷を減らしていく、環境省リサイクル推進室が実施する取り組みです。

リユースの取組の現状

○リユース業界は3～4兆円規模の市場*であり、今後の成長分野としても期待される。
○容器包装のリサイクルは着実に進展してきているが、マイボトルのリユースも同様に勧め、環境負荷の更なる削減が必要ではないか。

* 中古車、古本、家電製品、PC、家具、古着、自転車、カー用品等

(再商品化手法別廃棄物量構成比の推移) (単位:トン/年) 白色トレイを除く



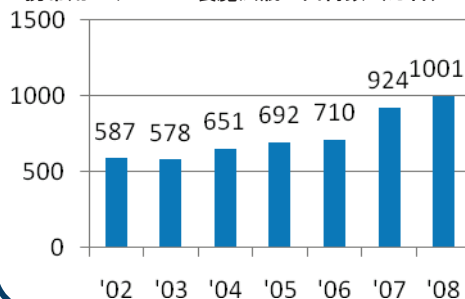
○日本全体で発生する廃棄物等5億8300万トンのうちリサイクルには2億2500万トン(約4割)まわっているものの、リユースにまわっているのはわずか300万トンと1%にも満たない。

マイボトルの取組みの拡がり

○近年、マイボトルの売り上げが増加し、市民への広がりを見せ始めるとともに、地方自治体でも普及啓発活動が始まっている。



携帯用ステンレス製魔法瓶の出荷数(万台)



横浜市立大学では、幅広い教養と高い専門能力を兼ね備え、21世紀の未来社会を担うリーダーシップと国際感覚を持つ人材を育成する中で、教育、研究、診療活動を通じて環境保全活動に積極的に取り組み、地域社会と地球環境に貢献することを「環境方針」として掲げており、ごみの減量化や資源化、省エネルギー対策、さらには Co2 削減などに取り組んでいます。

また、下記の学生の自主的な環境活動があり、このような環境活動に対して大学としても協力をしています。

- ☆リサイクルできる弁当容器の導入
- ☆大学祭において、使い捨て容器を削減するため、飲食用のリユーストレイやリユースコップを導入
- ☆大学祭での来場者へのごみの分別の案内
- ☆卒業生が巣立つ際にいらなくなった日用品を引き取り、新入生に提供する「リユース市」や「エコチャリ」の実施
- ☆ペットボトルのキャップ回収箱をキャンパス内に設置し、回収後、業者に委託しベンチや建材にリサイクル

このような中で、環境省から「マイボトル・マイカップキャンペーン」の案内をいただき、ペットボトル等のごみの減量化を推進するため、横浜市立大学も参加することになりました。このキャンペーンに参加することで、学生・教職員・地域住民の環境意識の向上を図り、地域環境・地球環境の改善に寄与することも考えています。

なぜマイボトルを導入？(リサイクルからリデュース、リユースへ)

☆リデュース(ごみの発生抑制)

飲み物を買う時に、マイボトルを持参するとペットボトルや缶、使い捨てカップなどのごみを出しません。

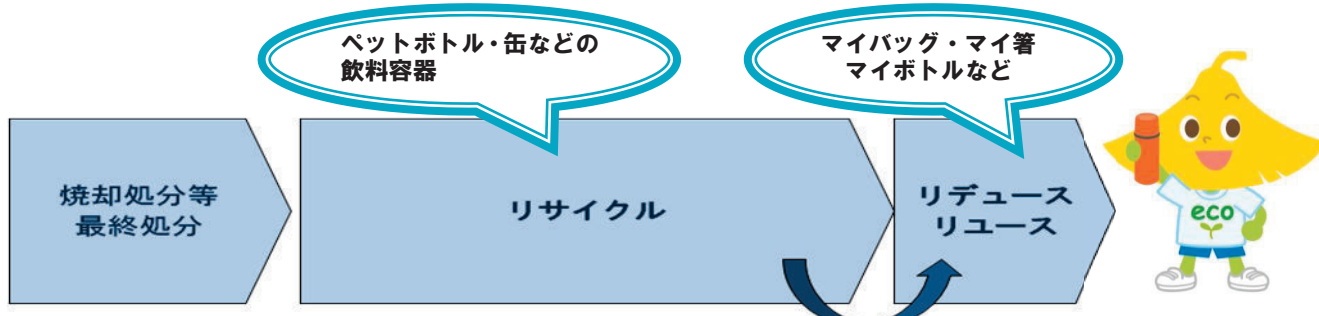
☆リユース(再使用)

マイボトルを繰り返し使うことにより、使い捨てカップなどのごみが出ません。

横浜市大のごみの量は？

八景軒ハッス H21 飲料水販売実績	
ペットボトル	19 万本
缶・紙ハック	4 万本
合計	23 万本

出所：大学生協



実証実験

本キャンペーンでは、全国の3大学（横浜市立大学、フェリス学院大学、大阪大学）において、マイボトル等の配布と利用可能なインフラ整備を通じて、取組の定着の程度と環境負荷削減効果を検証することになりました。

横浜市立大学では、環境サークル「STEP UP」、学生生協委員会「Warp」、大学生協と協働で、今後の学内でのマイボトル普及の可能性を拓くための実証実験を下記のとおり行ないました。

【期 間】：2010年6月1日（火）～2010年7月30日（金）

【場 所】：八景キャンパス

【給水スポット（5機）設置場所】：



1. ㈱環境向学 協力



2. ㈱寺岡精工 協力



3,4. (社)ホトウォーター協会 協力



1. 浄水装置付き給水機（冷水）：
本校舎1F廊下（学務・教務課前）
2. 浄水装置付き給水機（冷水）：
市大交流プラザ「いちょうの館」
3. ボトル型給水機の設置（冷水・温水）：
シガビル2F（生協売店内）
4. ボトル型給水機の設置（冷水・温水）：
市大交流プラザ「いちょうの館」

Aqua Street

TERAOKA

JBWA

【ボトルモニター】：横浜市立大学の学生 計500名

- マイボトルの学内普及・モニタリングのため、学生モニターに500本のシンボルマーク入りボトルを配布
- アンケートの回収率を上げるため、ボトル配布時に500円を徴収し、3週間後のアンケート回収時に500円分の生協金券を進呈するデポジット制
- PR活動や口コミなどの効果もあり、キャンペーン開始後1週間で500本すべての配布が終了

実証実験の流れ



- (1) モニター登録後、ボトルを大学生協売店で受け取る（デポジット※金500円支払う）
- (2) 実証実験期間中に、学内3箇所の給水スポットを利用しボトルを3週間使用する
- (3) 3週間のボトル使用後にアンケート回答（デポジット金<食料利用券500円>返却）
- (4) アンケートの分析、実証実験の検証

配布したボトルと協賛企業（敬称略）

Peacock®
ピーコック魔法瓶工業(株)

ZOJIRUSHI
象印マホービン(株)

SIGG®
㈱スター商事



ピーコック
200本



ZOJIRUSHI
（赤）100本



ZOJIRUSHI
（ﾌﾞﾙｰ）50本



ZOJIRUSHI
（ﾌﾞﾗウン）50本



SIGG
100本

広報活動①（学内普及の取組）

- 6月1日のキャンペーン開始に合わせて、キャンパス内には数種類のキャンペーンポスターを掲示
- 学生モニターにボトルを配布する大学生協では、定期配信のメルマガにキャンペーンの詳細やモニター募集の告知を掲載し、大学のポータルサイトでもキャンペーンの記事を掲載し、学生への周知を図りました。



（環境サークル STEPUP ↑）

広報活動② (エコイチデー (エコなヨコ仔を目指す) を実施)

- 実施日：6月28日(月)・7月5日(月)の昼休み
- 場所：八景キャンパス シーガルセンター前
- 目的：マイボトル・マイカップキャンペーンをより多くの方に知ってもらうこと
- 内容：マイボトル・マイカップを持ってきてくれた方の中から毎日先着合計100名の方に紅茶のポーションやスポーツドリンクの粉末をプレゼント
- 感想：横浜市大のイメージキャラクター「ヨッチー」も登場し、たくさんの方に参加してもらい、たいへん盛り上がりのあるイベントになりました。当日は横浜市資源循環局の皆さんと一緒に、ごみの分別の大切さについての紹介も行い、学生の環境保護への意識向上にもつながりました。

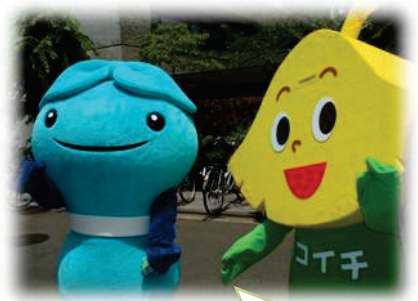
(環境サークル STEP UP↑)



マイボトル・マイカップキャンペーンを広めることが目的で行ったエコイチデーでしたが、環境保護について改めて考えるよい機会となりました。



横浜市資源循環局さんによるごみ分別についての展示☆

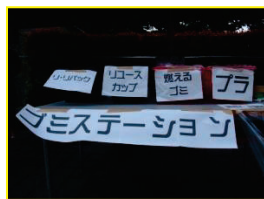


「ヨコハマはG30」のマスコットキャラクター「へら星人ミーオ」と市大キャラクター「ヨッチー」の夢のコラボレーションが実現!

広報活動③ (ビアガーデンを実施)

(学生協委員会 Warp)

- 実施日：6月29日(火)・7月2日(金)
- 場所：八景キャンパス シーガルセンター前
- 目的：マイボトル・マイカップキャンペーンの成功のためには個々人の環境への意識が重要となるため、そのためにまずは環境に関心を抱いてもらうこと。
- 内容：①洗って繰り返し使える容器「リユースカップ」で飲み物を提供
②リサイクル可能な「リ・リパック」で食べ物を提供、またビアガーデン中に行なわれるイベントにてマイボトル・マイカップキャンペーンに関する〇×クイズを行なうことでマイボトルキャンペーンの認知度上昇を目指しました。
- 感想：とても多くの方が来場し、「リ・リパック」「リユースカップ」を利用していました。あわせて、〇×クイズでキャンペーンの紹介を行なったことで横浜市大が環境に力を入れているということを伝えることができました。

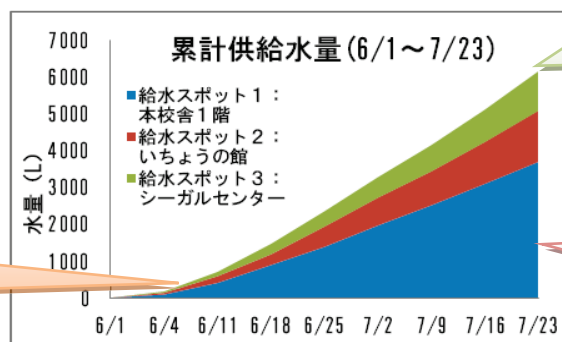


↓リ・リパック

↑リユースパック

キャンペーンの結果① (供給水量)

キャンパス内の3ヶ所に設置された給水スポットで、一週間毎の供給水量を計測し、使用状況を確認しました。その結果を、グラフにまとめました。(環境サークル STEP UP↑)



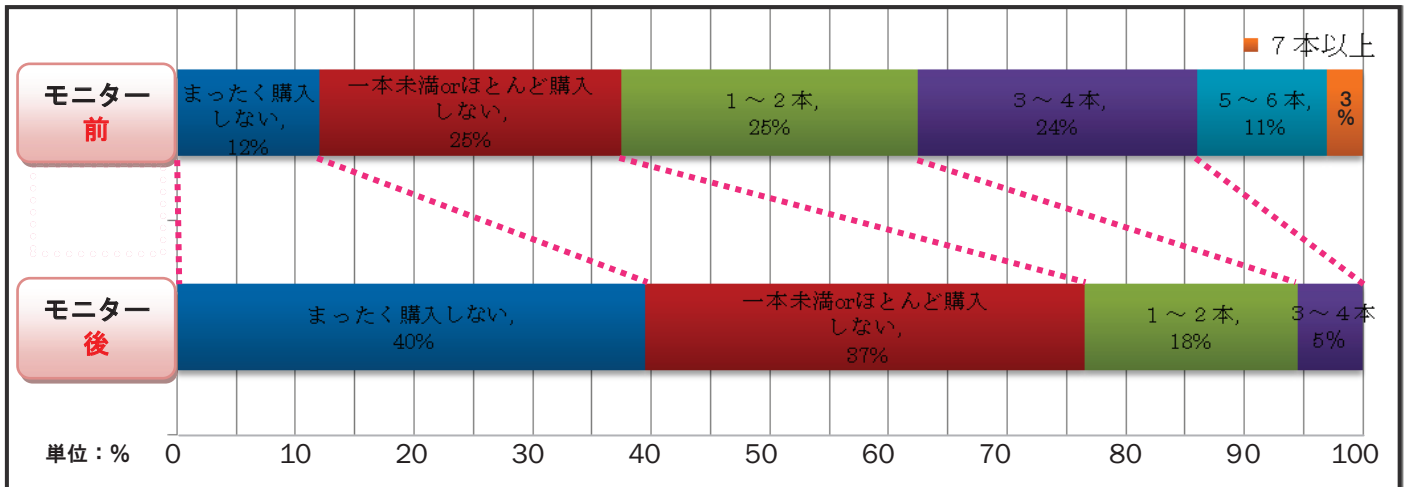
供給水量から、徐々にキャンペーンが浸透・定着していった様子が伺えます。

7月23日時点での、合計の供給水量は**6170**リットルでした。ペットボトル(500ml)に換算すると、約**1.2万本**です!!

人気の給水スポットでは、一週間で約**600**リットルも給水されています。

キャンペーンの結果② (アンケート収集結果)

学内店舗(自動販売機含む)において1週間に購入するペットボトル飲料の本数の推移



[コメント]

- モニター前後でこれほど数値に差が出た。モニター前では全体の40%の人が一週間に3本以上のペットボトルを購入するというデータが出ていた。しかしモニター後ではその数値は全体の5%近くまで減少している。
- 「全く購入しない、一本未満 or ほとんど購入しない」を合わせた人数はモニター前後で倍近く差がおり、週に1本以上ペットボトルを購入するのは200人中50人程度という結果に終わった。このキャンペーンがペットボトルのリデュースに大きく貢献したことがわかる。

(学生生協委員会 Warp)

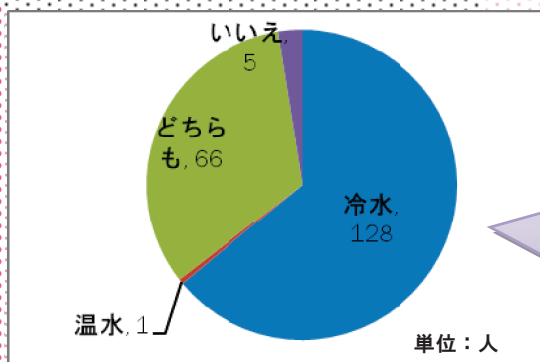
今後の取組

★環境サークル STEP UP↑

- 今回のキャンペーンで、ゴミの削減や環境問題に興味を持ってくれた学生が、今後も参加できるようなイベントを企画したいです。
- 「マイボトル・マイカップキャンペーン」に興味を持っている他団体もあるので、そういった団体などにうまく情報提供やアドバイスができれば、キャンペーンの普及に貢献できると考えています。
- その他の活動では、毎年行っている「浜大祭」(大学祭)での環境保全活動に、今年も全力で取り組みたいと思います。再利用できるトレイやカップを使用したり、来場者に分別を案内したりして、「浜大祭」で出るゴミの減量化を図ります。その他にも、身近な環境問題にコツコツ取り組んでいきたいと思っています。

★学生生協委員会 Warp

【今後の給水機(ボトルウォーター含む)利用についての希望】



アンケートを集計した結果左のような結果が出ました。これは今後の給水機(ボトルウォーター含む)利用についての希望をグラフ化したものです。

これほどまでに給水機利用を継続してほしいとの声が上がっています。今後の取組としては、

- ①冷水、温水もしくは両方の継続を視野に入れ検討
- ②その他の要望、例えば水以外の提供など現実的かどうかを検討があげられます。

今年10月には横浜市立大学にて全国環境セミナーが開催されます。全国から環境に関心がある学生達が集まる場でマイボトル・マイカップキャンペーンについて発表することで横浜市立大学の環境に対する熱意を盛り上げていきたいです。

環境サークル STEP UP↑の紹介

環境サークル STEP UP↑は「学生ができる身近な環境活動を考え、実行する」ことを目的とし、2003年に創設された部活です。学内の環境活動をはじめとし、学外でもさまざまな団体などと協力して環境活動を行っています。

STEP UP↑は部員の自主性や他団体の要請に応じて幅広く活動を行っています。最も重点を置いている活動は学祭における環境活動です。

STEP UP↑は学祭において以下の環境活動に取り組んでいます。

【学祭における環境活動】

1. ゴミの分別啓発 : 来場者の方にゴミの分別を呼びかけることで、意識向上を図ります。
2. リユースカップの導入 : 飲料販売の際、紙コップの代わりに再利用可能なプラスチックカップ（リユースカップ）を用いることで、ゴミの削減に取り組めます。
3. リサイクルトレイの導入 : 普通のトレイに比べて効率よくリサイクルできるトレイ（リサイクルトレイ）を導入し、ゴミの削減や効率的な再資源化に取り組めます。

学祭での活動のほかには、ペットボトルキャップの回収に取り組んだり、ゴミ拾いなどの活動も行ったりしています。また、横浜市資源循環局さんとの連携もあり、年に数回ゴミの分別啓発等の合同企画も行います。

【主な活動実績（2010年）】

- ・ ペットボトルキャップ回収
- ・ ゴミ拾い@高尾山
- ・ 環境月間「エコイチデー」
（横浜市資源循環局さんとの合同企画）
- ・ マイボトル・マイカップキャンペーン
- ・ 海の公園ビーチクリーン



STEP UP↑はこのような、身近な環境問題について考え、環境保全や環境啓発などに積極的に取り組んでいます！！

～マイボトル・マイカップキャンペーンの感想～



今回私たち STEP UP↑は主にマイボトル・マイカップキャンペーンのPR活動を行ったのですが、キャンペーンを通じて多くの学生にマイボトルやマイボトルから始めるエコについて関心を持ってもらうことができ、非常に嬉しかったです。私はもともとマイボトルを持ち歩くことが多かったのですが、学校に給水スポットができたことにより、より一層マイボトルを持参する頻度が増えました。給水をしに行くとき多くの方が給水スポットに並んでいることもよくあり、学生や職員の方の関心の高さがうかがえました。マイボトルを持参することで、いつでも冷たい水を飲むことができるようになりましたし、個人的には飲料を購入する頻度がかなり減り、経済的にも非常に助かりました。その行動がゴミの削減というエコにつながるということで、とても有意義なキャンペーンだったのではないかと思います。

今回のキャンペーンは大学でのものですが、今後は学校のみならず社会にも普及してほしいと感じました。学校以外で給水スポットを目にするのはほとんどなく、外出先で喉が渇いた時はコンビニや自販機で飲料を買って水分補給をするというのがまだまだ一般的だと思います。より多くの人にマイボトルについて知ってもらい、給水スポットも社会に増えることで、身近なエコがどんどん広がってほしいと思います。（3年：三浦 麻友子）

このキャンペーンに企画段階から参加して、色々な方と意見を交換しながら、積極的にPR活動などに取り組んだことは、とても良い経験になりました。

始まってみると予想以上に周りからの反響が大きく、「便利だ」という声をよく聞きます。同じコースの友達もほとんどマイボトルを持参していますし、給水スポットに行列が出来ているところを見ると、学生たちに受け入れられている事を実感します。

このキャンペーンを行ったことで、大学内では環境保全に対する関心が高まってきていると思います。せっかく芽生えた“エコの芽”を、これから大きく育てていくためにも、この取り組みが続いてほしいです。（3年：柴田 洋和）



マイボトル・マイカップキャンペーンが始まって1か月たったとき、わたしは減らすことのできたペットボトルの本数を聞いて驚きました。たったの1か月でおおよそ3000本の資源を節約することに成功していたのです。正直このキャンペーンについてのお話を聞いたとき、そんなにうまくいくものとは思っていませんでした。いくらお財布にやさしいとはいえゴミを減らそうというこの企画に興味を持ってもらえるのかどうか不安だったからです。しかしわたしの予想はうれしいことに簡単に覆されてしまいました。

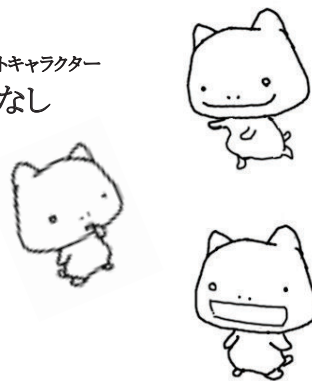
今では多くの人が当たり前のようにマイボトル・マイカップを利用してくださっています。環境保護活動をするのに必要なのは、自然環境の現状とそれに対して行われている活動を多くの人知ってもらうことだと思っています。環境保護に強い興味を持った一部の人だけが活動しても、何も知らない人が多ければ結果にはつながらないからです。この活動が、たくさんの人の環境保護に取り組むきっかけになったらいいなと思います。（1年：門倉 萌衣子）

2010年度 学生生協委員会報告

Warp とは...

正式名称「学生生協委員会 Warp」!! 総勢 25 名で一年間を通して様々な活動を行なっています。ここでは、3 月~7 月までにに行った活動を紹介していきます!

Warp
マスコットキャラクター
ななし



3月~4月:新入生歓迎パーティー

毎年新入生の 6 割以上が参加する「新入生歓迎パーティー」を今年も開催しました☆このパーティーの目的は、入学前に友達を作って大学に慣れてもらうこと!なんと今年は 561 人(新入生の 6.6 割)が参加してくれて、もう会場のシーガル食堂はぎゅうぎゅうでした(泣)
ちなみに Warp の委員は全員当日スーツ。(←左の写真)
内容はさまざま!!! 日中参加者全員に楽しんでもらうために、委員は徹夜で準備です!
「オリエンテーリング」では構内を回りながら各施設を紹介し、「レクリエーション」では委員自主作成の【自己紹介すごろく】を使いながら和気あいあいと遊びました(´ε`)//実際に仲良くなれたかどうかは写真の仲睦まじい様を見ればわかると思います☆



4月~7月:ビアガーデン



私たち学生生協委員会 Warp は名前からわかるように“生協”に絡んだ活動しています。生協”というちょっと遠い存在に思える組織と学生たちをつなぐ“架け橋”となるのが総代です!!

4 月に初顔合わせした総勢約 100 名の総代は“総代がなんたるか”を学ぶための「総代会」を経て、7 月に学内で開催されるビアガーデンに向け活動を始めます。組合員への還元イベントであるビアガーデンは横浜市大の夏の風物詩であり、学生達の交流の場を提供します。今年は 6 月 29 日、7 月 2 日に開催し多くの方が来場されました。ビアガーデンでは洗って繰り返し使える容器「リユースカップ」で飲み物を提供、そしてリサイクル可能な「リ・リパック」で食べ物を提供するなど環境に意識した活動を行なっています☆

マイボトル・マイカップキャンペーン!に参加して...



国際経営コース 2 年 吉澤 哲

以前は一日二本近くのペットボトルを買っていたが、キャンペーンを通して自然にマイボトルを導入でき、ペットボトル購入の削減につながった。環境の面では地球にやさしく、そして経済的にも節約につながるのので有意義なキャンペーンだと感じる。



政策経営コース 3 年 岩永 遥

キャンパス内に給水機が設置されたおかげで暑い日でも水分補給に困ることがなくなりました。キャンペーン期間に限らず夏は冷水、冬は温水とこれからも給水機を利用したいと思います。



12 月~4 月 リユース市



卒業生が巣立つ際にいらなくなった日用品を引き取り、新入生に提供するしくみ、それがリユース市です。

2010 年度も多くの新入生から応募があり、冷蔵庫、洗濯機などの家電用品など多くの家具を新入生宅へ無料でお届けしました。過去には横浜市立大学学長奨励賞を受賞したこともあり今後も活動を継続していきけるよう、努力していきます。

○そのほかの取り組み
後期(9~3月)には後期総代活動、新入生冊子「トリセツ」発行などを行なっています。マイバッグ普及に向け、横浜市大オリジナルエコバッグを作成し横浜市大生協購買部での販売等行ないました。